

[中立な立場の独立系投資助言会社が本音で解説！]
企業における「個人型確定拠出年金」の
「間違わない」活用、運用のポイント
～企業年金制度の見直し、年金運用商品の目利き、低コスト運用のポイント～

- 日 時■ 2017年 3月14日(火) 10:00～12:00
- 会 場■ 企業研究会セミナールーム(東京・麹町)
- 講 師■ RIA JAPAN おカネ学株式会社 代表取締役 安東 隆司 氏
- 参加対象■ 企業・団体の人事・総務ご担当、経理・財務ご担当の方など

【講師紹介】 立教大学社会学部卒業後、三和銀行へ入行(現 三菱東京UFJ銀行)。三菱UFJメリルリンチPB証券に出向後、2007年よりフランス・ソシエテジェネラルのプライベートバンキング専門の信託銀行であるSG信託銀行に入行(現 SMBC信託銀行)。日米欧の銀行、証券、信託銀行でプライベートバンカーとして15年、金融業界26年を経験し独立。2015年8月おカネ学株式会社を設立 代表取締役に就任。CFP®ファイナンシャル・プランナー他資格多数。

◆ 開催にあたって

2017年1月から、個人型確定拠出年金の制度が大幅に拡充されました。確定給付年金制度の「運用損失を企業が補てんするリスク」からの脱却プランとして有力な選択肢となり、従業員の老後への備えとして重要な拡充内容となっています。

しかし、これまで制度に関する解説がクローズアップされる一方で、企業にとっての運用についてはあまり語られてきませんでした。そこで、本セミナーでは、制度拡充に伴う企業年金制度の見直しのポイントや、年金運用商品の選択の際に注意すべきポイント、また手数料高によるマイナスを避ける「低コスト運用」のポイントについて解説します。講師は、元・金融機関勤務で、現在は商品販売に一切関わっていない独立系投資助言会社のCFP®(サーティファイドファイナンシャルプランナー)です。運用のプロが中立的な視点で語ります。

〈プログラム詳細は裏面をご覧ください〉

●受講料●1名(税込み、資料代含む)

正会員	5,400円 本体価格 5,000円
一般	16,200円 本体価格 15,000円

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてにFAXいただくか、当会ホームページからお申し込みください。メール返信の形で受講票をお送りいたします。また会員企業以外の方には請求書を別途送らせていただきます。
- 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。
- お申込み後のキャンセルは原則としてお受けいたしかねますので、お申込者をご出席できない場合には、代理の方のご出席をお願い申し上げます。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきますことでもありますので、ご了承下さい。

一般社団法人企業研究会

担当: 倉島 E-mail: kurashima@bri.or.jp
〒102-0083
東京都千代田区麹町5-7-2 麹町Msquare2F
TEL 03-5215-3515 FAX 03-5215-0951

企業研究会 セミナー事務局宛

FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (<http://www.bri.or.jp>) からもお申し込みいただけます。

161882 - 0306		※		2017.3.14	
申込書					
会社名	フリガナ				
住所	〒				
TEL			FAX		
ご氏名	フリガナ		所属	役職	
Eメール					

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

[中立な立場の独立系投資助言会社が本音で解説！]
**企業における「個人型確定拠出年金」の
「間違わない」活用、運用のポイント**
～企業年金制度の見直し、年金運用商品の目利き、低コスト運用のポイント～

3月14日(火)

● プログラム ●

10:00

1. 企業年金制度の課題と個人型確定拠出年金の基本
 - 1) 企業が避けるべき企業年金制度、制度設計の見直し
 - ・企業年金の損失は企業の損失
 - ・企業年金制度が従業員の資産形成へ寄与することの意味
 - ・企業年金制度の方向性で見直しポイント
 - 2) 個人型確定拠出年金の基本
 - ・個人型確定拠出年金の基本的な理解
 - ・なぜこれほどのメリットがある制度を整備したのか
 - ・金融機関のビジネスモデルと普及活動
 - 3) 企業が個人型確定拠出年金を進めることのメリット
 - ・現在の企業年金制度は個人型確定拠出年金よりも有利なプランか
 - ・企業が積立金不足の補てんをすることの合理性は
 - ・金融機関とのしがらみから従業員の資産形成を開放する
2. 運用商品の選び方、目利きのポイント
 - 1) チャートの罫を避け、適切な金融商品を見分けるためのポイント
 - ・チャートの罫の具体的事例と見分け方のポイント
 - ・ヘッジファンド指数の曲げられた事実（バイアス）
 - 2) 金融商品の運用コスト
 - ・金融機関のビジネスモデル
 - ・金融庁の警鐘
 - ・投信の信託報酬のリターンへの影響
 - 3) 外貨預金をどう判断するか
 - ・表面利率に惑わされない判断
 - ・コスト管理は「トータル・コスト」
3. 低コスト運用の基本と実践
 - 1) 米国で主流である低コスト運用の考え方
 - ・頻繁な推奨変更マネージャーのパフォーマンスが悪い？
 - ・頻繁な商品乗り換えは誰に利益があるのか
 - ・コミッションベースから「フィー・ベースド・ビジネスへ」
 - 2) 運用方法と実践
 - ・アクティブ運用とパッシブ運用
 - ・GPIFの運用はパッシブ8割超

12:00

※講師とご同業の方はご参加頂けない場合がございます。予めご了承ください。